

CELLISSIMO

http://kobe-cello.com

ベルリン・フィルの大ホールで、200人のチェロ本番



ベルリン・ツアー報告記 2006年1月のドイツ演奏旅行を報告しましょう。

ドイツ紀行

1月12日(木) 晴れ
閑空↓(フランクフルト) ↓ベルリン
期待に胸躍らせて待った日がとうとうやってきました。閑空での集合時間8:00には皆さん遅れずに来ていました。フランクフルトまでのフライトは約12時間半、時差は8時間で日本よりも遅いとのこと。フランクフルトで乗り継ぐも何のトラブルもなくベルリンに着。その夜は串乃屋ベルリン店で夕食

です。なじみの美味しい串料理に舌鼓を打ちました。

1月13日(金) 曇り
ベルリン 午前中・フリー 午後・ベルリン室内楽ホールで練習

練習会場は室内楽ホールで行なわれました。練習の前半はR.Wensheimer氏の指導が始まり、後半は本番を指揮されるG.Schulz氏が指導してくださいました。

夕食は、通訳の六草あつこさんの紹介でポツダマー・プラッツ近くのドイツ料理店に繰り出しました。その味の旨さとボリュームの多さに圧倒され、大満足でした。

1月14日(土) 晴れ
ベルリン 午前中・フリー 午後・ベルリンフィル・コンサートホール・ホワイエで全員での練習 20:00ラトル指揮マラー交響曲第4番の鑑賞

午後のロビーでの全員練習は狭い場所のため、横に広がらざるを得ないので別パートの音が聴こえづらいのでは? と心配しましたが、各人の集中力で見事にカバーされていました。夜は、サイモン・ラトル指揮、ベルリン・フィルでマラーの交響曲第4番を鑑賞しました。見事な演奏を、生で、しかも、我々の席がパーカッション・グループのすぐ後ろだったのでラ

トルの顔と指揮ぶりを正面から見られたのも貴重な体験でした。その代わり、後ろ向きで聴くMagdalena Kozenaのメゾプラノが聴こえづらかったのは仕方ありません。

1月15日(日) 晴れ
ベルリン 午前中・フリー 午後・ゲネプロ、コンサート本番

遅い朝食と早い昼食をとり早めにコンサートホールへ行きました。13:00からのゲネプロでも大勢の客でしたが、コンサート本番ではオケの周りにまで立ち見の客がいて、大盛況でした。200人のチェリストの見事な演奏に1曲1曲盛大な拍手が惜しみなく送られました。客席は家族連れが多く見られ、小さな子どもが大きな風船を持っていたりして、前夜のサイモン・ラトルのコンサートとは違った雰囲気です(休日の楽しいコンサート)が肌で感じられました。200人のチェロコンサートは大成功に終わりました! プラボー!

1月16日(月) 曇り
午前・ベルリン・ミュンヘン 移動 午後・ミュンヘン・フィルのチェリストたちとアンサンブル 夜・ティールマン指揮 ブラームス交響曲第4番 鑑賞
早朝あわただしく朝食をすませ、ベルリン空港からミュンヘンへ発ちました。11:30ミュンヘン空港着、外は粉雪が舞い、寒いけれども寒さを忘れさせる景色の素晴らしさに圧倒されました。ホテル着後すぐに演奏会場へ。食堂で昼食



1 練習の合間にベルリン・フィルホールのホワイエにて

ベルリン・フィル小ホールではヴァインスハイマー氏による練習もありました



素晴らしい思い出をありがとう！

会期中7日間にわたって繰り広げられた「インターナショナル・チェロ・コンGRESS・イン神戸2005 (ICC)」では、全14のチェロ・コンサート、25の公開マスタークラス、クリニック、レクチャー、サミットがそれぞれ3つずつ行なわれるなど、世界的にみても類がないほどの充実ぶりでした。招聘されたチェリスト、レクチャーの講師などは、日本・海外合わせて50名以上、コンサートの延べ観客数は9,616名、マスタークラスの延べ聴講者は1,240名、『1000人のチェロ・コンサート』に参加の演奏者はプロ・アマチュア合わせて1,069名、参加国は25か国にのびりました。その他にも、ワークショップ会場では、チェロや弓の製作工房、楽器店などが出展し、参加者の交流の場となりました。

河合隼雄文化庁長官の司会によって、現代チェロ界の巨匠であるロストロポーヴィチ氏、シュタルケル氏、グリーンハウス氏のディスカッションが『チェロの教育と未来について』というテーマで行なわれ、多数の観客が熱心に聞き入っていました。また「チェロフェス

ティバル事務局長サミット」では世界チェロ機構 (WCO) の設立が宣言されました。コンサートではシュタルケル氏をはじめとした世界で活躍するチェリストが集まり、無伴奏から関西フィルハーモニー管弦楽団との共演まで、様々な形態でのチェロ演奏が繰り広げられました。

ICC会期中に行なわれたワークショップも大変な賑わいをみせました。ここにはカナダ、アメリカ、イタリア、南アフリカ、中国、日本と世界中から集まったチェロ・弓の職人工房、楽器販売店、楽譜販売店などのブースが立ち並び、時にはコンサートやレクチャーが行なわれました。さらに、音だしもかねて、チェロを演奏するチェリストや参加者が多数見られ、チェロを通じた国際交流サロンとなったことは嬉しいことです。

最終日の『1000人のチェロ・コンサート』は、ロストロポーヴィチ氏、大友直人氏の両指揮で行なわれ、その模様は2006年1月にNHK教育「芸術劇場」で放映されました。ただ単に人数を集めただけではなく、芸術性が

極めて高い一大チェロアンサンブルを世界各国の参加者を交えたロストロポーヴィチ氏の指揮で世界に向けて披露し、同時に平和への願いを発信しました。

このように7日間にわたるコンGRESSでは、当初計画以上のプログラムの充実さと盛況さをもって、チェロを通じた国際交流のみならず、人と人とのつながり、音楽への愛、平和への願いを発信させることができました。とりもなおさず、芸術レベルが非常に高いチェロコンGRESSが日本で開催されたことの意義は非常に大きく、内外のチェリスト・音楽芸術関係者に周知徹底されました。



1面からの続きです。

の後14:00からミュンヘン・フィルのチェリストたちとアンサンブル。大変楽しい一時でした。チェリストであることの至福のひとつを過ごせたと思います。

夜はミュンヘン・フィルハーモニック・ホールでティールマンのブラームス交響曲第4番を鑑賞。多少旅の疲れも出ていましたが、素晴らしい演奏に癒されて気持ち良く聴くことができました。その夜はミュンヘン・フィルのチェリスト数人も来て、西村さん紹介のドイツレストランで打ち上げを行ないました。

1月17日(火)曇り 終日自由行動

朝ゆっくり起き、遅めの朝食をとり市内見物へと繰り出しました。アルテ・ピナコテーク美術館で絵画を見学した後、レジデンツ宮殿(中は博物館になっています)を見



ICCにも参加したミュンヘンフィルのチェリストと一緒に練習しました

学、歴代のバイエルン王家の遺品などを見ました。新庁舎付近でウインドウ・ショッピング、おみやげを調達。最後の夜の総打ち上げ会場はインド料理でした。この旅行最後とあって大いに盛り上がりたものです。

1月18日(水)晴れ

ミュンヘン(フランクフルト)→関空
短いドイツ滞在も終わり、世界のTOPクラスの舞台を見て、演奏したという二度とできないであろう経験をさせていたという思いに満足しながら機上の人となりました。通訳の六草あつこさん、西村優子さんには大変お世話になりましたが、それもこれも松本さんのご手配、気遣い、精神的な行動力があってのことと感謝しております。本当にありがとうございました

水野暢 (Naomi27)



ミュンヘンのアルテピナコテーク前で

ICC詳細報告

International Cello Congress
in KOBE 2005
in association with the American Cello Council
～ 1000 Cellists Concert ～

登録者数 (チェリスト)

全体登録 : 216名
ハーフ登録 : 64名
一日登録 : 109名
1,000人のチェロ : 1,069名

マエストロの人数 : 47名 (チェリストのみ、海外33名、日本14名)
参加国数 : 25カ国
1,000人チェロの参加申込者数 : 1,185名
1,000人チェロ演奏参加者数 : 1,069名
1,000人チェロの聴衆数 : 3,006名
準備に要した年数 : 5年 (2000年6月～2005年5月)

各コンサート観客動員実績

【コンサート】	【席数】	【入場者】	【入場率】
オープニング	700	517	74%
午後のベートーヴェン 5/17	700	490	70%
午後のベートーヴェン 5/18	700	417	60%
夕方のバッハ 5/17	700	450	64%
夕方のバッハ 5/18	700	440	63%
夕方のバッハ 5/19	700	511	75%
グランドコンサートI 5/17	700	604	86%
グランドコンサートII 5/18	1,700	1,085	64%
グランドコンサートIII 5/19	1,700	1,181	69%
アンサンブルコンサートI 5/19	700	500	71%
アンサンブルコンサートII 5/20	700	495	71%
第3回1,000人のチェロ・コンサート	3,500	3,006	86%

レンタルチェロ数 : 63台
公式練習回数 : 20回 (神戸6、東京6、名古屋2、佐賀1、福岡1、等海1、山形1、広島1、金沢1)
1,000人チェロ分奏練習 : 全館2カ所、延べ約180回
通訳者数 : 10名 (大島、森澤、佐藤、酒井、鈴木、和久、子田、堀内、市部通訳2名)
ピアニスト数 : 9名 (アドニ、上田、林、笹村、吉沢)

鈴木、島羽、練木、細見)
取材報道関係団体数 : 12社 (サンテレビジョン、soul放送、NHK、読売新聞、朝日新聞、時事通信、神戸新聞、音楽の友、サラサーテ、ストリング、ミュージックトレード、シュプリッターエコー)
スタッフ数 : 67名 (うちボランティア39名)

第3回1000人のチェロのCD/DVDを頒布します

昨年の第3回1000人のチェロコンサート参加者の皆様には、NHKで放映された映像をDVDにしたものを、4月中にはお届けさせていただきます。

それとは別に、寄付金を新たにいただいた方に1500円あたり1枚の換算で「第3回1000人のチェロのCDまたはDVD」を1枚お届けさせていただきます。ただし、原則としてお一人20枚までを限度とします。

寄付金の受付は、NPO事務局まで。



2006 3/28 定時総会の報告

NPO国際チェロアンサンブル協会第6回会員定時総会は下記の内容で開催されましたが、事務局のミスで欠席者から「委任状」をいただけていませんでした。

3月24日の出席者13名全員の賛同はいただけましたが、議決の規定数には満たないため、3月28日に欠席会員全員に郵便にて可否を問いました。

4月8日までに2006年3月28日現在の会員129名の過半数をいただいた後に、下記の四つの議案が承認されます。

NPO国際チェロアンサンブル協会 第6回会員定時総会

日時：2006年3月24日(土) 15:00～
場所：東京恵比寿ファイブビル会議室

出席者：石川嘉一、石渡日出男、薄井秀夫、柏木武春、子安康子、塩井正子、白沢史子、田中文雄、田原光子、中村幸太郎、永山恭子、松本巧、山本康雄

討議内容

- A ICC報告事項
(1) ICC全体内容について(資料1)
(2) 第3回1000人のチェロ・コンサートについて(資料2)

1) について(資料2)
(3) 2006年1月ベルリンツアーについて(資料なし)

B 審議・承認事項
第一号議案(資料3～4)

(1) 2005年度事業報告と決算の承認
第二号議案
(2) 2006年度事業計画案と予算案の承認(資料5)

第三号議案
(3) 中越地震復興チャリティコンサートの実施(資料6)

第四号議案
(4) 定款変更・理事定数の変更と選出(資料6)

C 協議事項(資料7～9)
(1) ICCSの運営について
・繰越損の処理
・理事の適性と理事の仕事
・会員拡大

(2) Maria Kiegalトリオの招聘について
(3) チェロ・アンサンブル作曲コンクールについて
(4) 「The 1st International Cello Ensemble Competition」について

(5) 高円宮様追悼コンサートについて
D その他

掲 示 板

募集

「新潟中越地震復興支援 チャリティーコンサート」 参加者募集

日程は決定していますが、具体的な演奏場所、回数、曲目は未定です。下記要領の段階では正式な参加者の募集はせず、前述事項が決定した段階（5月中旬）でNPO会員の皆様にご案内申し上げます。

■現在決定している内容

実施時期 2006年10月7日（土）、8日（日）
場所 新潟県山古志村入江地区あたりの小・中学校
形式 全員手弁当、チャリティーコンサート
指揮者 田久保裕一氏（内語）
コンサートマスター 林柳昭氏（予定）
最終計画決定 2006年5月中
参加募集 2006年7月末まで
練習 九州、関西、首都圏、東北で各1回の公式練習を予定
実行委員長 新理事から選任
曲目、その他詳細などは実行委員長を中心に検討・決定。
曲目はこれまで「1000人のチェロ」で頻りに演奏してきた曲が中心となる予定

は、さうい！お元氣ですか？ 大分の姉御さん白沢です。
昨年は、1000チェロにとつて、とても素晴らしい熱い年でした。
その思いを、今年はずいぶん「新潟中越地震復興支援」のための募金コンサートに
注ぎませんか？ それで、全国の人が応援してよ、っていうメッセージを、
10月7日・8日には新潟に届けませんか？
ちなみに大分では、6月3日（土）、4日（日）と8月26日（土）、27日（日）
街頭にて大分重団でチェロアンサンブルをやります。
（近くの方、ぜひ協力してください。曲目は、
1000チェロの第1～3回の中から選曲します）
各地で活動されているグループの方も、募金コンサートを、
ぜひやってください！お互いに、情報交換をしましょう！
【連絡先】白沢 携帯電話 090・8299・9011
携帯メール fumi@fumi-ane-go@ezweb.ne.jp

PS. 場所・曲目など 決まり次第、詳しくネットなどでお知らせします。

コンテスト

第2回「チェロアンサンブル・ コンテスト in かさおか」開催します

チェロアンサンブル・コンテストは、2002年に笠岡チェロフェスティバルの一環として行なわれたことがきっかけとなって、2004年に1回目の「チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」が開催されました。

過去2回は、いずれも神戸に本拠を置く「#&b」が優勝を飾っています。

その第2回「チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」が、2005年6月18日（日）に開催されます。前回同様、「チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」実行委員会・「しゅかき市民音楽協会」と「NPO国際チェロアンサンブル協会」に、それに地元CATVの「笠岡放送（株）」が主催し、上位団体を表彰します。

今回は、審査員に松下修也先生をお迎えし、さらに、前回行なった参加者全員によるチェロアンサンブルの代わりにチェロアンサンブルサロンを計画しています。

また、今回新たに主催に加わっていただいた地元CATVの「笠岡放送」によるテレビ放映も決定しています。

参加費は、1団体当たり5,000円と1人当たり3,000円（NPO会員は、半額の1,500円）の合計金額で、持ち時間は、1団体当たり10～15分程度です。

会場は、笠岡市保健センター「ギャラクシーホール」（笠岡市十一番町）で、13:30開場、14:00開演の予定です。参加団体によるリハーサル会場は、前日17日（土）の13:00～17:00までと、当日18日（日）の9:30～12:00まで、本番会場である「ギャラクシーホール」を確保しています。コンテスト終了後は、当然、打ち上げを計画しています。前日の土曜日の夜も、有志による懇親会を…と考えています。

昨年は、神戸での催し（ICC）がありましたので開催できませんでした。今後は、1000チェロのいい年には毎年開催する予定です。ご意見・ご要望をお寄せいただけますと、ぜひご参加ください。ご連絡・お問い合わせは、実行委員会事務局 中村幸太郎まで。

E-mail kohtaro@kcnv.ne.jp
電話 030-3746-8923

笠岡市：中村幸太郎（No.010074）

同窓会

1000人のチェロ・ベルリッツ ア—同窓会 in 霧島

夢のようなベルリッツハーモニーホールでの「CELLISSIMO」の演奏から2ヵ月後、我々ツアラーたちは再び、鹿児島は霧島に集合しました。

場所は霧島国民木曜村。コテージを借り切って、一晩中チェロ演奏&酒宴をむさぼろうという趣向です。参加者は全部でプロ、アマ入り交じて19名。ベルリッツには一緒にいかなかったチェリストや、地元鹿児島のカンチエリストも駆けつけてくださり、ともに楽しい一夜を過ごしました。

雨がもたらした3月18日。期待していた桜の開花は届かず、少し肌寒い天候です。

みなさん遠方からなので、屋過ぎから夕方にかけて三々

五々のお集りでしたが、先着組ではもう待ちきれずにチェロを取り出し、さっそく合奏が始まっていました（ビールじゃないところが偉かった！）。

まずは思い出のベルリッツでのプログラムを一通りおさらいします。ヘンデルの「パッサカリア ワークナーのZug zum Münster」、世界の民謡のメドレー「Berlin grüßt die Welt」。2ヵ月の時間は経っていますが、みんなの頭の中にはあの200人のチェリッシュモサウンドが響いているのかわかります。

日が暮れて、参加者19名全員が揃ったところで、地元の春の食材で作られた「田舎弁当」とりあえず腹ごしらえです。B6用紙くらいのかわいらしいサイズのお弁当に「これはなぜ？」と思った人が中にしんがいのかわいらしいの、とところがこれはお酢の口。この同窓会のお世話役を引き受けてくださった曾木さんの奥様、忠子さんが腕を振るわけて、具だくさんのさつま汁、地酒が一升も入っているという「酒寿司」が登場。直径40センチはあろうかという寿司桶に海老や鯛の刺身が美しく盛り込まれていました。

それから数々の肴やサラダ、鹿児島ならではの焼酎、みなさんの持ち寄りのお土産。この贅沢な食膳と、弾き手がかわる代わる奏でるチェロの音楽。なんと華やかな宴でしようか。この後も用意された楽譜で初見大会や、密かに特別を積んで来たチアライズ演奏などなどが続きました。



もうひとつのこの日のお目当ては、ベルリッツでのコンサートのDVD鑑賞です。画面の中の見知った顔を探したり、名演奏は拍手を送ったりで、大盛り上がりでした。

こんな調子で宴は日付が変わっても続いています。翌日は前夜の雨が去って、爽やかな晴れ。皆でコテージの前で記念写真を撮り、また次の再会を約束して、それぞれの帰路についたのでした。

私らが1000チェロ事務局長松本さんが、「みんなが羨み、尊敬してやまないプロの方々から、またチェロ暦3年のヴィブラートがようやくの新人の方々まで、すべてのチェリストたちが楽しむことができました。これは音楽のあり方として「最高」のあり方ではなかったでしょうか？ 1000人のチェロ精神の真骨頂ではなかったでしょうか？」と、この夜のことを表現されていました。楽器は他にもたくさんあるけど、私たちが取り憑かれているのはこの懐の深いチェロという楽器と、チェロを弾く人々の情熱と、しみじみ味わうことができた。

最後になりましたが、この同窓会の成功のためにごまごまと準備心を配ってくださった曾木さんご夫妻、翌日まで参加者の送迎や観光におつきあいくださった鹿児島市の百原さん、野元さん、山口さん、橋村さんに心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

福岡市：上田聖子（No.010240）



1000人のチェロ

「新潟中越地震復興支援コンサート」

に関して募金活動のお願い

ご案内しています10月7日（土）～8日（日）の新潟における震災復興支援コンサートに向けて、「全国からの寄付金」をお願いいたします。

金額は問いません。

皆さんが普段なさっておられるチェロアンサンブルで同コンサートに持参するための「チャリティーコンサート」を「募金活動」としていただきたいと思います。

・6月17～18日の「笠岡チェロアンサンブルコンテスト」でも募金活動をお願いします。

・金額よりも「全国各地で彷彿として「チェロ」により中越震災復興支援の募金活動」が行なわれていること」に大きな意義があります。「1000人のチェロ」は阪神大震災復興支援を目的としたコンサートから生まれたのです。

私たちがチェロを通じてできるとも意義のあることですので、皆様のご参画を呼びかけます。

・ご照会が事務局。

松本までお願いします。

Tel 078・8055・2001

Tel 090・11566・4199

故中田弘子さんからの遺贈

2003年12月「宮城追悼演奏会」人見記念講堂にも参加された寺田義彦先生の元生徒の中田弘子さんが、昨年暮れに具合が悪くなり入院されましたが、年明けに残念ながら他界されました。中田さんは第二回1000人のチェロ（2001年7月開催）の東京公式練習の会場探しに尽力くださいました。

チェロの処分を相談された寺田先生から「故人の遺志を尊重する意味でもNPOに寄贈するのがベスト」とお話をいただきました。3月末にその代金26万円全額がNPOの口座に届けられました。ここに皆様にご報告を申し上げます。謹んで中田さんのご冥福をお祈り申し上げます。（合掌）

寺田先生のご厚志にも心から感謝・御礼を申し上げます。

事務局長 松本 巧